

公聴会，評価委員会での意見を参考に改訂を加え，2015年3月に「急性膵炎診療ガイドライン2015」として刊行した。

今後，ガイドライン普及のために，関連組織のホームページに掲載，ダイジェスト版の作成，診断や重症度判定が可能で，Pancreatitis Bundles やそのチェックリストも搭載したモバイルアプリも開発予定である。

D. 考察

診療ガイドラインは臨床での変化に伴って改定されていくことが大切であり，今回，改定を行った。しかしながら，その目的である，患者の予後の改善のためには，ガイドラインの作成だけではなく，ガイドラインの普及を図り，より多くの医療スタッフに使用してもらうことが必要である。また，ガイドラインの評価が行われ，さらに良いガイドラインに改定されることも必要である。

E. 結論

「急性膵炎診療ガイドライン2015」は最新のガイドライン作成手法を用いて作成されたが，ガイドラインの普及，評価も引き続き必要である。

F. 参考文献

1. 急性膵炎の診療ガイドライン作成委員会編(日本腹部救急医学会，日本膵臓学会，厚生労働省特定疾患対策研究事業難治性膵疾患に関する調査研究班)．エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン．金原出版，東京，2003.
2. 急性膵炎の診療ガイドライン第2版作成出版委員会 編(厚生労働省科学研究班，日本腹部救急医学会，日本膵臓学会，日本医学放射線学会)．エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン 第2版．金原出版，東京，2007.
3. 急性膵炎の診療ガイドライン作成出版委員会編：急性膵炎の診療ガイドライン2010．金原出版，東京，2009.

G. 研究発表

1. 論文発表
 - 1) 真弓俊彦．重症急性膵炎の治療．竹末芳生．編．セブシス救命治療の最前線 -SSCガイドラインとその後．大阪，医薬ジャーナル社，2014; 358-366.
 - 2) 真弓俊彦，遠藤武尊，染谷一貴，神谷行宣，中野和歌子，大坪広樹，高間辰雄，城戸貴志，亀崎文彦．急性膵炎の診断と重症度判定．膵臓 2014; 29:157～162.
 - 3) 横江正道，真弓俊彦，竹山宜典．急性膵炎における経腸栄養の重要性 -全国アンケート調査の結果から-．膵臓2014; 29:196～204.
 - 4) 真弓俊彦，染谷一貴，山口優子，小西勇輝，高橋直樹，荒井秀明，長谷川潤，竹内慶法，大坪広樹，高間辰雄，鈴木仁士，城戸貴志．急性膵炎の診断基準，重症度判定，初期診療の留意点 ～Pancreatitis bundles～"．胆と膵 2014;35:1015～1020.
 - 5) 真弓俊彦，染谷一貴，山口優子，小西勇輝，高橋直樹，荒井秀明，長谷川潤，竹内慶法，大坪広樹，高間辰雄，鈴木仁士，城戸貴志．"急性膵炎診療ガイドライン2010第3版改訂の重要ポイント．肝胆膵 2014;696:1097-1102.
2. 学会発表 該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定も含む)

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし

DPC データを用いた急性膵炎の疫学調査

研究報告者 真弓俊彦 産業医科大学医学部救急医学講座 教授

共同研究者

染谷一貴(産業医科大学病院), 横江正道(名古屋第二赤十字病院総合内科)

村松圭司, 松田晋哉(産業医科大学医学部公衆衛生学)

伏見清秀(東京医科歯科大学医学部医療政策情報学)

【研究要旨】

3年間に急性膵炎として登録されたDPC参加病院に入院した20歳以上の患者の全入院患者数、年齢、男女比、予後因子スコア、CT Gradeに加え、重症度別の死亡率について解析を行った。急性膵炎全体では38,916例で、死亡率は3%であった。予後因子スコア3点以上の重症例の死亡率は14.2%、造影CT Grade 2以上の重症例の死亡率は5.5%、ともに陽性での死亡率は15.1%であった。予後因子スコア別死亡率は、スコアの上昇に伴い、上昇した一方、造影CT Gradeの上昇に伴い、死亡率は上昇したが、その上昇の程度は軽度であった。

A. 研究目的

難治性膵疾患に関する調査研究班で現在まで行われている急性膵炎の全国調査は層化無作為抽出法による3,000例程の調査であるが、推計の急性膵炎推定受療患者数は63,083名と報告されている。そこでDPCデータを用いて多数例の解析を行い急性膵炎の日本での疫学を明らかにする。

B. 研究方法

対象は平成22～24年の3年間に急性膵炎(K85)を主病名として、登録されたDPC参加病院に入院した20歳以上の患者である。これらの全入院患者数、年齢、男女比、予後因子スコア、CT Gradeに加え¹⁾、重症度別の死亡率について解析を行った。

C. 研究結果

急性膵炎全体では38,916例で、死亡率は3%であった。予後因子スコア3点以上の重症例は3,686例で、死亡率14.2%、造影CT Grade 2以上の重症例は8,503例で、死亡率5.5%、ともに陽性は1,954例で、死亡率15.1%であった。予後因子スコア別死亡率は、スコアの上昇に伴い、上昇した。一方、造影CT Gradeの上昇に伴い、

死亡率は上昇したが、その上昇の程度は軽度であった。

D. 考察

予後因子スコアは多数項目による算定により臓器不全をとらえていると考えられ、より死亡率に直結していた。一方、造影CT Gradeは膵臓局所のみ重症度評価は1つの指標でしかなく、死亡率は軽度の上昇に留まり、重症度評価以外にも診断や治療方針の指標としての意味合いがより大きいと考えられた。

E. 結論

DPCデータの解析により、多数例を検討することにより、より正確な疫学データを得ることができる。予後因子スコアはより重症度を正確に反映していると考えられた。

F. 参考文献

1. 急性膵炎の診療ガイドライン作成出版委員会編：エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン2010。金原出版，東京，2009。

G. 研究発表

1. 論文発表
 - 1) 真弓俊彦. 重症急性膵炎の治療. 竹末芳生. 編. セプシス救命治療の最前線 -SSCガイドラインとその後. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2014; 358-366.
2. 学会発表 該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし

膵炎局所合併症に対する治療の実態調査

研究報告者 佐田尚宏 自治医科大学消化器・一般外科 教授

共同研究者

伊佐地秀司(三重大学大学院肝胆膵・移植外科学), 糸井隆夫(東京医科大学 臨床医学系 消化器内科学分野)

北野雅之(近畿大学医学部消化器内科学)

竹山宜典, 松本逸平(近畿大学医学部外科学肝胆膵部門)

廣田衛久(東北大学病院消化器内科), 安田一郎(帝京大学医学部附属溝口病院消化器内科)

小泉 大, 黒河内顕, 笹沼英紀(自治医科大学消化器・一般外科)

【研究要旨】

重症急性膵炎の局所合併症の治療は、その成否が生命予後に影響する重要な因子である。2012年に公開された改訂 Atlanta 分類に対応して、2014年に「膵炎局所合併症(膵仮性嚢胞, 感染性被包化壊死等)に対する診断・治療コンセンサス」が、本研究班より公開され、局所合併症に対する治療に一定の方向付けが行われた。一方で、本邦での膵炎局所合併症治療の実態は把握されていない。本研究では、重症急性膵炎の局所合併症に対する治療の実態調査を行い、治療の現況とコンセンサスとの整合性について検討する。

A. 研究目的

急性膵炎は、最重症例ではいまだに20%程度の死亡例が認められる致死率の高い疾患で、急性膵炎に伴う局所合併症の治療においても難渋することが多い¹⁾。

これまで「急性液体貯留」「膵壊死・感染性膵壊死」「膵仮性嚢胞」「膵膿瘍」と呼ばれてきた急性膵炎局所合併症は、2012年に発表された改訂 Atlanta 分類によって「急性膵周囲液体貯留」「急性壊死性貯留」「膵仮性嚢胞」「被包化壊死」の4つのカテゴリーに分類され、さらに感染の有無によって8つの entity が定義された²⁾。

膵炎局所合併症に対する治療は、従来、外科的なドレナージ、ネクロセクトミーが行われてきたが³⁾、近年、経乳頭的治療、経消化管的治療、経腹腔鏡的治療といった低侵襲だが、より高度な技術と経験を必要とする手技が実施されるようになりつつある。

こういった現状をふまえて、本研究班では2014年「膵炎局所合併症(膵仮性嚢胞, 感染性被包化壊死等)に対する診断・治療コンセンサス」(以下、膵炎局所合併症コンセンサス)を作成し

た³⁾。本コンセンサスは改定 Atlanta 分類に基づき、膵炎局所合併症治療の標準化を目的に作成されたものであるが、1施設で経験される膵炎局所合併症症例が少なく、多施設での情報共有のシステムが存在しないことから、全国的な症例の蓄積が行われておらず、日本国内での治療の実態が把握されていない現状がある。本研究は、重症急性膵炎の局所合併症治療の実態を調査、解析することにより、日本国内での膵炎局所合併症に対する治療の実態を把握することを目的とする。

B. 研究方法

膵炎局所合併症に対する治療の実態調査のための Working Group(WG)を組織した。WG 検討会を行い、今後の調査の方法、内容について検討した。

C. 研究結果

2014年10月25日神戸で開催した WG 検討会で、先行研究である

1. 2011年急性膵炎全国調査からの局所合併症

の報告

2. JENIPaN studyからの局所合併症治療の報告⁴⁾について、東北大学廣田先生、帝京大学溝の口病院安田先生から報告をいただいた。その結果を踏まえて、

① 調査方法

② 調査対象時期、施設

③ 調査対象症例の選定

について議論した。先行研究において、2011年急性膵炎全国調査では膵炎局所合併症治療症例自体が少ないとの結果が報告され、JENIPaN studyではアンケート実施時期が2005-2011年と内視鏡治療自体の黎明期であったため症例の選定、治療実施時期にかなりのばらつきがみられたことが報告された。

これらの議論を踏まえ、本研究における実態調査は、次回の急性膵炎全国調査を利用するのではなく、2010-2014年の5年間を対象期間として本WG独自の後ろ向き調査を実施することとした。調査医療機関は、外科系は日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設A・Bを対象とし、内科系は学会抄録から内視鏡的治療を行っている医療機関データベースを作成し対象とすることとした。今後、1次調査として症例数調査を、2次調査として症例profile調査を計画し、2016年1月に第1次報告を行う予定で、調査を進める。

D. 考察

2012年に公開された改訂Atlanta分類では、発症4週間以内の急性膵炎局所合併症はAcute peripancreatic fluid collection (APFC)、Acute necrotic collection (ANC)、4週間以降は膵仮性嚢胞とWalled-off necrosis (WON)の4者に分類し、それぞれsterileとinfectedにわけた8つのentityを定義された²⁾。この改訂Atlanta分類に沿った実臨床に役立つ治療指針(ガイドライン・コンセンサス)として、2014年本研究班で膵炎局所合併症コンセンサスを公開したが、本コンセンサスの実施コンプライアンスを高めるためにも、実態調査は不可欠と考えられる。実臨床においては、膵炎局所合併症に対する治療は、従来、外科的なドレナージ、ネクロセクト

ミーが行われ、経乳頭的治療、経消化管的治療、経腹腔鏡的治療といった低侵襲治療が、近年急速に広まりつつある。このコンセンサスと実臨床との解離の有無、低侵襲治療施行後の合併症の発生状況などを検討することは重要であり、今後の急性膵炎重症度判定基準、診療ガイドライン改定へ向けて有用となるエビデンス作成を目指したい。

E. 結論

今後、膵炎局所合併症に対する治療の実態調査として、対象症例を選定する1次調査と症例profileを調査する2次調査を実施する。

F. 参考文献

1. 急性膵炎診療ガイドライン2010改訂出版委員会. 急性膵炎診療ガイドライン2010[第3版]. 東京都. 金原出版. 2011;1-160.
2. Banks PA, Bollen TL, Dervenis C, Gooszen HG, Johnson CD, Sarr MG, Tsiotos GG, Vege SS; Acute Pancreatitis Classification Working Group. Classification of acute pancreatitis--2012: revision of the Atlanta classification and definitions by international consensus. *Gut* 2013;62:102-11
3. 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業難治性膵疾患に関する調査研究班. 膵炎局所合併症(膵仮性嚢胞, 感染性被包化壊死等)に対する診断・治療コンセンサス. *膵臓* 2014; 29:775-818.
4. Yasuda I, Nakashima M, Iwai T, Isayama H, Itoi T, Hisai H, Inoue H, Kato H, Kanno A, Kubota K, Irisawa A, Igarashi H, Okabe Y, Kitano M, Kawakami H, Hayashi T, Mukai T, Sata N, Kida M, Shimosegawa T: Japanese multicenter experience of endoscopic necrosectomy for infected walled-off pancreatic necrosis: The JENIPaN study. *Endoscopy* 2013; 45:627-34.

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Ishioka H, Sata N, Ishiguro Y, Lefor A, Yasuda H. JOP. Early-Phase Thin-Slice CT in the Diagnosis of Small Insulinomas. J Pancreas 2015; 16:597-599.
- 2) 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 難治性膵疾患に関する調査研究班編. 研究代表者：下瀬川徹, 研究分担者：糸井隆夫, 佐田尚宏. 膵炎局所合併症(膵仮性嚢胞, 感染性被包化壊死等)に対する診断・治療コンセンサス. 膵臓 2014;29:777-818
- 3) 佐田尚宏. 特集：急性膵炎の診断と治療：新しい動向. 感染を合併した WON (Walled-off necrosis) の治療. 外科的アプローチ. 膵臓 2014;29:223-228
- 4) 佐田尚宏. 特集：膵炎に対する低侵襲治療の進歩. 急性膵炎の治療方針. 胆と膵 2014;35:399-404
- 5) 佐田尚宏, 田口昌延, 笠原直哉, 森嶋計, 兼田裕司, 三木厚, 石黒保直, 黒河内顕, 遠藤和洋, 小泉大, 笹沼英紀, 佐久間康成, 清水敦, 栗原克己, 安田是和. 【膵炎大全～もう膵炎なんて怖くない～】膵炎各論 アルコール性膵炎. 胆と膵2014; 3: 1125-1129
- 6) 佐田尚宏. 【感染症診療 update】(II章) 主要な臓器感染症 腹腔内感染症 重症急性膵炎(膵壊死部感染). 日本医師会雑誌 2014; 143 S166-S168
- 7) 向井俊太郎, 糸井隆夫, 安田一郎, 佐田尚宏, 森安 史典. 特集：急性膵炎の診断と治療：新しい動向. 感染を合併した WON (Walled-off necrosis) の治療. 内視鏡的アプローチ. 膵臓 2014;29: 210-222

2. 学会発表

- 1) Miki A, Sakuma Y, Aida J, Izumiyama-Shimomura N, Sanada Y, Kawano Y, Hasanuma H, Morishima K, Kasahara N, Ishikawa N, Nakamura K, Matsuda Y, Fukushima N, Takubo K, Sata N, Yasuda Y. Telomere length shortening associated to the malignant potentials in intraductal

papillary mucinous tumor of the pancreas. Pancreas 2014;432:1390

- 2) 佐田尚宏, 森嶋計, 石黒保直, 兼田裕司, 黒河内顕, 遠藤和洋, 小泉大, 笹沼英紀, 佐久間康成, 安田是和. 膵空腸吻合の工夫と術後管理, 当科における新たな膵空腸吻合の試み - ドレーン抜去基準作成と Blumgart-dumpling 法導入. 第45回日本膵臓学会(北九州), 2014.7.11
- 3) 黒河内顕, 佐田尚宏, 森嶋計, 石黒保直, 三木厚, 兼田裕司, 遠藤和洋, 小泉大, 笹沼英紀, 佐久間康成, 安田是和. 膵癌疑いで切除された慢性膵炎(非膵癌)症例の Profile 調査. 第45回日本膵臓学会(北九州), 2014.7.11
- 4) 石黒保直, 佐久間康成, 笹沼英紀, 佐田尚宏, 安田是和. 当科における非機能性膵神経内分泌腫瘍切除症例15例の検討. 第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会(和歌山) 2014.6.11

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

- | | |
|-----------|------|
| 1. 特許取得 | 該当なし |
| 2. 実用新案登録 | 該当なし |
| 3. その他 | 該当なし |

ERCP 後膵炎のガイドラインの作成

研究報告者 峯 徹哉 東海大学医学部内科学系消化器内科学 領域主任教授

共同研究者

明石隆吉(熊本地域医療センター・ヘルスケアセンター), 伊藤鉄英(九州大学大学院病態制御内科学)
川口義明(東海大学医学部内科学系消化器内科学), 木田光広(北里大学東病院消化器内科)
宮川宏之(札幌厚生病院第2消化器内科), 菅野 敦(東北大学大学院消化器病態学分野)
花田敬士(J A 尾道総合病院消化器内科), 山口武人(千葉県立がんセンター)
森實敏夫(公益財団法人日本医療機能評価機構), 竹山宜典(近畿大学医学部外科肝胆膵部門)
難治性膵疾患に関する調査研究分担研究者・研究協力者

【研究要旨】

ERCP 後膵炎ガイドラインは、現在日本だけではなく、海外でもきちんとしたものは作成されていない。我々は厚生労働科学研究費補助金 難治性膵疾患に関する調査研究班と日本膵臓学会を母体とし ERCP 後膵炎ガイドラインを作成した。しかし、診療を行なうのは主治医であり、これらの行為は診療ガイドラインの領域外にある。本ガイドラインを個別の医療の適切性を判断する法的根拠に用いることはすべきでない。

A. 研究目的

1969年から ERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)が臨床的に行なわれるようになって胆膵疾患の検査として世界的に普及していった。その後 MRCP(磁気共鳴膵胆管造影)が開発され、その簡便さ、普及・進歩により、広く世界中に広まっていった。そのために ERCP の件数は低下すると当初は考えられた。しかし、必ずしも High volume センターの ERCP の件数は減っていない。そのひとつは ERCP 検査だけが分枝膵管の像の読影に耐えられる画像を提供するためである。さらに ERCP を応用した技術で診断と同時に治療もできてしまうことがあげられる。しかし、この検査は ERCP 後膵炎という偶発症を生じ死に至らしめることもある。最も重篤な偶発症は ERCP 後膵炎であり、場合によっては前述のごとく死亡事故に至ることもある。胆管炎や穿孔のような偶発症は対処法が示されており死亡にいたることは少ないと思われる。しかし、ERCP 後膵炎だけ未だにその詳細な機序が解決されていない問題である。しかも、最近、ERCP を応用した手技も多数開発されており、より詳細な臨床情報を得るために ERCP を行

なう機会は増加している。しかし、ERCP 後膵炎によって死に至った場合、訴訟に至ることもある。しかし、ERCP 後膵炎のガイドラインは海外でも日本でもきちんとしたものは存在しない。表1に作成手順を示す。我々は過去10年間の ERCP 後膵炎に関する国内、国外の論文を集めて ERCP 後膵炎のガイドラインを作成した。

B. 研究方法と対象

表1の如く、臨床課題を10個選び各々に対して CQ を作成した。

表1 ERCP 後膵炎ガイドラインの診断手順

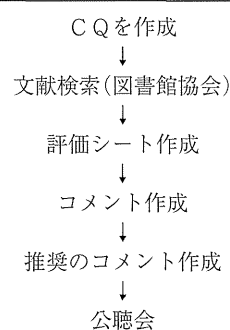


表2 臨床課題とCQ

臨床課題1：ERCPによりベネフィットの得られる対象者を選択する(適応の決定)

- CQ1-01 膵腫瘍に対してERCPは行われるべきか。
- CQ1-02 胆道癌症例に対してERCPを施行するべきか？
- CQ1-03 慢性膵炎症例に対してERCPは施行するべきか？
- CQ1-04 胆石症に対してERCPを施行するべきか

臨床課題2：ERCP適応を考慮する場合にERCP後膵炎の予測をすることによって患者に、より適切な情報を提供する

- CQ2-1 膵液流出障害があると、ERCP後膵炎が発症しやすいか？膵液流出障害はどのような時に生ずるか？
- CQ2-1-1 膵液流出障害があると、ERCP後膵炎が発症しやすいか？
- CQ2-1-2 膵液流出障害はどのような時に生ずるか？
- CQ2-1-2a 検査時間・膵管への造影剤注入量・圧、カニューレーション回数はERCP後膵炎発症に関与する。
- CQ2-1-2b 膵管擦過やIDUSはERCP後膵炎発症に関与するか。
- CQ2-1-2c 副乳頭やSantorini管の機能不全はERCP後膵炎発症に関与するか。

課題3：病歴聴取することでERCP後膵炎を予測できるか。

- CQ3-01 ERCP後膵炎を起こしやすい要因で病歴聴取により分かるものはあるか？
- CQ3-02 ERCP後、強い腹痛の出現はERCP後である可能性はあるか？
- CQ3-03 ERCP後、腹部の診察所見でERCP後膵炎は診断できるか？

課題4：ERCP後膵炎の危険因子

- CQ-4-01 ERCP後膵炎の患者側危険因子にはどのようなものがあるか？
- CQ-4-02 ERCP後膵炎の手技側危険因子にはどのようなものがあるか？

臨床課題5：ERCPのインフォームドコンセント

- CQ5-1 ERCPのインフォームドコンセントにおいて、特に重症膵炎の発症率および死亡率説明は必須か？
- CQ5-2 診断的ERCPの場合、MRCPによる代替の可否について説明すべきか？

臨床課題6：ERCP後膵炎の早期診断と方法

- CQ6-01 ERCP後膵炎の発症早期の診断に最適な時期は術後何時間か？
- CQ6-02 診断に最良な膵酵素は何か？臨床で用いる場合はどれが使いやすいか？
- CQ6-03 Procalcitonin(PCT)の測定は、ERCP後膵炎の重症度に有用か？

臨床課題7：ERCP後膵炎の診断基準の診断能 ERCP後膵炎の診断基準および重症度判定について

- CQ7-01 ERCP後膵炎が疑われる患者で胸部腹部X線撮影を施行することは急性膵炎の診断率の向上につながるか？
- CQ7-02 ERCP後膵炎が疑われる患者で早期にUS,CT,MRIを施行することは急性膵炎の診断率の向上につながるか？

臨床課題8：ERCP後膵炎の診断基準および重症度判定に

- CQ08-01 厚生労働省の重症度判定基準はERCP後膵炎の重症度の判定に適しているか？
- CQ08-02 ERCP後膵炎の重症度判定を早期に行うことは、死亡率の改善、および合併症率の低下につながるか？

臨床課題9：ERCP後膵炎の治療

- CQ9-01 ERCP後膵炎の治療
- CQ9-02 ERCP後膵炎の治療に蛋白分解酵素阻害薬を投与すると投与しない場合と比べ治療期間を短縮するか？
- CQ9-03 ERCP後膵炎の治療に大量輸液は、通常輸液場合と比べ予後を改善するか？

臨床課題10：ERCP後膵炎の予防

- CQ10-01 蛋白分解酵素阻害剤はERCP後膵炎を予防するか？薬剤による違い、投与方法の違い、投与量の違いはあるか？
- CQ10-02 NSAIDsはERCP後膵炎を予防するか？投与量の違いはあるか？
- CQ10-03 ソマトスタチンはERCP後膵炎を予防するか？
- CQ10-04 ステロイドはERCP後膵炎を予防するか？
- CQ10-05 膵管ステント留置はERCP後膵炎を予防するか？使用する膵管ステントの径や長さ、形状で予防効果は異なるか？
- CQ10-06 WGC(Wire-guided cannulation)はERCP後膵炎を予防するか？

C. 研究結果

表1にあるように現在、日本膵臓学会での公聴会が終了している。その質疑をもとに文章を修正し、平成26年度難治性膵疾患に関する調査研究班で発表した。今後、難治性膵疾患に関する調査研究班と日本膵臓学会の連名で雑誌に投稿する予定である。

D. 考察

ERCP 後膵炎のガイドラインを作成した。しかし、診療を行なうのは主治医でありこれらの行為は診療ガイドラインの領域外である。

E. 結論

ERCP 後膵炎のガイドラインを作成し、紙面での発表の段階にきている。

F. 参考文献

1. 金子栄蔵, 小越和栄, 明石隆吉, 赤松泰次, 池田靖洋, 乾和郎, 大井至, 大橋計彦, 須賀俊博, 中島正継, 早川哲夫, 原田英雄, 藤田直孝, 藤田力也, 峯徹哉, 山川達郎. 内視鏡的逆行性膵胆管造影検査(ERCP)の偶発症防止のための指針. 日本消化器内視鏡学会雑誌. 2000;42: 2294-2301.
2. Cotton PB, Lehman G, Vennes J, Geenen JE, Russell RC, Meyers WC, Liguory C, Nickl N. Endoscopic sphincterotomy complications and their management : an attempt at consensus. *Gastrointest Endosc.* 1991;37:383-393.
3. 峯 徹哉, 明石隆吉, 伊藤鉄英. 他 ERCP 後膵炎の前向き検討 難治性膵疾患に関する調査研究 平成17年度総括・分担研究報告書主任研究者 大槻 眞. 35-39.

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 湯原宏樹, 川口義明, 峯徹哉. 蛋白分解酵素阻害剤3剤とNSAIDsのERCP後膵炎予防効果に関するメタ解析. 日本消化器内視鏡学会雑誌 2014;56.Suppl.1:971.
- 2) 川口義明, 中郡聡夫, 峯徹哉. 閉塞性慢

性膵炎に対する内視鏡治療と外科治療の現状. 日本消化器内視鏡学会雑誌 2014;56. Suppl.1:931.

- 3) 峯徹哉. ERCP 後膵炎の病態と対策. 日本消化器内視鏡学会雑誌 2014;Suppl.1: 970.
 - 4) 川口義明, 川島洋平, 丸野敦子, 小川真実, 峯徹哉. 慢性膵炎における膵管迷入・断裂ステントのリスクファクターに関する検討と回収の実際. 膵臓 2014;29:3.296.
 - 5) 峯徹哉, 川口義明, 小川真実, 伊藤裕幸, 川島洋平, 丸野敦子, 湯原宏樹. ERCP 後膵炎の予防について. 肝胆膵 2014;69 :6:1103-1108.
 - 6) Kawaguchi Y, Lin JC, Kawashima Y, Maruno A, Ito H, Ogawa M, Mine T. Accessory pancreatic duct-portal vein fistula: A rare complication of Chronic Pancreatitis during endoscopic retrograde cholangiopancreatography. *Case Rep Gastroenterol* 2014;8 :3:291-296.
 - 7) Yuhara H, Ogawa M, Kawaguchi Y, Igarashi M, Mine T. Smoking and risk for acute pancreatitis: a systematic review and meta-analysis. *Pancreas* 2014;43. 8:1201-7.
- ### 2. 学会発表
- 1) 湯原宏樹, 川口義明, 峯徹哉. 蛋白分解酵素阻害剤3剤とNSAIDsのERCP後膵炎予防効果に関するメタ解析. 第87回日本消化器内視鏡学会総会. 福岡. 2014.5.
 - 2) 峯徹哉. ERCP 後膵炎の病態と対策. 第87回日本消化器内視鏡学会総会. 福岡. 2014.5.
 - 3) 峯徹哉, 明石隆吉, 木田光広, 花田敬士, 山口武人, 伊藤鉄英, 森實敏夫, 菅野敦, 宮川宏之, 川口義明, 中郡聡夫, 杉森一哉. ERCP 後膵炎の診断基準の確立・検証とその啓発. 難治性膵疾患に関する調査研究(竹山班)平成26年度 第1回研究打合せ会 東京. 2014.7.
 - 4) 峯徹哉, 明石隆吉, 小俣富美雄, 伊藤鉄英, 五十嵐良典, 入澤篤志, 大原弘隆, 川口義明, 木田光広, 宮川宏之, 吉田仁, 西森功,

花田敬士, 森實敏夫, 下瀬川徹. ERCP 後
膵炎の重症度分類 尿中トリプシノーゲン
2による評価. 難治性膵疾患に関する調査
研究班平成26年 第1回研究打ち合わせ会
東京. 2014.7.

- 5) 峯徹哉. ERCP 後膵炎の診断基準を考える.
第45回日本膵臓学会大会ランチョンセミ
ナー. 福岡. 2014.7.
- 6) 峯徹哉, 明石隆吉, 伊藤鉄英, 川口義明,
菅野敦, 木田光広, 花田敬士, 宮川宏之,
山口武人, 森實敏夫. ERCP 後膵炎診療ガ
イドライン公聴会. 第45回日本膵臓学会大
会福岡. 2014.7.

H. 知的財産権の出願登録状況(予定を含む)

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
乾和郎, 山本智支, 三好広尚	体外式衝撃波結石破碎術 (ESWL)	「消化器病診療(第2版)」編集委員会	消化器病診療第2版	医学書院	東京	2014	361-363
片岡慶正, 保田宏明, 阪上順一	経腸栄養剤による慢性膵炎疼痛治療の新たな展開	編集: 林紀夫, 日比紀文, 上西紀夫, 下瀬川徹 III, 胆膵—膵臓	Annual Review 消化器2014	中外医学社	東京	2014	216-221
Chung JB, <u>Kamisawa T</u>	Preface	Kamisawa T, Chung JB	Autoimmune Pancreatitis	Springer	Heidelberg	2014	v
<u>Kamisawa T</u> , Takeuchi T, Shiratori K	Overview of Type 1 and Type 2 AIP	Kamisawa T, Chung JB	Autoimmune Pancreatitis	Springer	Heidelberg	2014	3-8
Chiba K, <u>Kamisawa T</u> , Tabata T, Iwasaki S	Retroperitoneal fibrosis	Kamisawa T, Chung JB	Autoimmune Pancreatitis	Springer	Heidelberg	2014	117-119
Koizumi S, <u>Kamisawa T</u> , Kuruma S	IgG4-related gastrointestinal lesion	Kamisawa T, Chung JB	Autoimmune Pancreatitis	Springer	Heidelberg	2014	143-146
<u>Kamisawa T</u> , Kim MH, Chung JB	International survey of autoimmune pancreatitis	Kamisawa T, Chung JB	Autoimmune Pancreatitis	Springer	Heidelberg	2014	183-188
神澤輝実, 岩崎将	膵以外の臓器で何か徴候は起こるのでしょうか? それはどんな所見ですか?	花田敬士	これだけは知っておきたい膵疾患診療の手引き	中外医学社	東京	2014	196-200
神澤輝実	膵管癒合不全	糸井隆夫	画像で見ぬく消化器疾患 Vol.4 胆道・膵臓	医学出版	東京	2014	164-165
神澤輝実, 来間佐和子, 田畑拓久	膵胆道の先天性形成異常	日本消化器病学会	消化器病診療 第2版	医学書院	東京	2014	232-236
武田和憲	急性膵炎診療ガイドライン2010(第3版)	山口 徹, 北原光夫	今日の治療指針	医学書院	東京	2014	1825-1830
竹山宜典	急性膵炎・重症急性膵炎	福井次矢, 高木誠, 小室一成	今日の治療指針 私はこう治療している	医学書院	東京	2014	535-540
竹山宜典	2. 重症急性膵炎における bacterial translocation と感染対策	林紀夫, 日比紀文, 上西紀夫, 下瀬川徹	Annual Review 消化器2014	中外医学社	東京	2014	211-215
竹山宜典	急性膵炎診療ガイドライン2010	吉永 和正	看護師・研修医必携 救急・ICUですぐに役立つガイドライン これだけ BOOK	メディカ出版	大阪	2014	72-76
竹山宜典	がん腹膜転移	比企直樹, 土師誠二, 向山雄人	NST・緩和ケアチームのためのがん栄養管理完全ガイド QOLを維持するための栄養管理	文光堂	東京	2014	319-329
竹山宜典	1. 高度侵襲手術周術期膵頭十二指腸切除術	大村健二, BEAM 編集委員会	栄養管理をマスターする 代謝の理解はなぜ大事?	文光堂	東京	2014	188-196
竹山宜典	重症急性膵炎治療における step-up approach	竹原徹郎, 金井隆典, 下瀬川徹, 島田光生	Annual Review 2015消化器	中外医学社	東京	2015	145-151

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年
Kawasaki E, Maruyama T, Imagawa A, Awata T, Ikegami H, Uchigata Y, Osawa H, Kawabata Y, Kobayashi T, Shimada A, Shimizu I, Takahashi K, Nagata M, Makino H, Hanafusa T	Diagnostic criteria for acute-onset type 1 diabetes mellitus (2012) : Report of the Committee of Japan Diabetes Society on the Research of Fulminant and Acute-onset Type 1 Diabetes Mellitus	J Diabetes Invest	5	115-118	2014
種村 彰洋, 信岡 祐, 伊佐地 秀司	【慢性膵炎 - 新しい概念と診断・治療の展開】慢性膵炎の外科治療	臨床消化器内科	29	591-598	2014
藤永 和寿, 飯澤 祐介, 伊佐地秀司, 佐藤 芳邦	【膵炎に対する低侵襲的治療の進歩】急性膵炎の経皮的治療 Step-up approach 法の1st stepとしての役割	胆と膵	35	405-411	2014
飯澤 祐介, 安積 良紀, 伊佐地 秀司	【急性膵炎の診断と治療：新しい動向】医療資源投入量からみた急性膵炎重症度の再評価	膵臓	29	163-170	2014
伊佐地 秀司, 種村 彰洋, 安積 良紀	【急性膵炎の診断と治療：新しい動向】急性膵炎における WON の概念とは	膵臓	29	202-209	2014
松田 明敏, 種村 彰洋, 伊佐地 秀司	【肝胆膵・術後病態を学ぶ】膵炎術後・治療後慢性膵炎の外科治療と術後に必要な診療・治療	肝胆膵	69	13-12	2014
伊佐地 秀司	膵膿瘍と WON(被包化壊死)	肝胆膵治療研究会誌	12	86-90	2014
下瀬川 徹, 糸井 隆夫, 佐田 尚宏, 祖父尼 淳, 向井 俊太郎, 乾 和郎, 白鳥 敬子, 廣岡 芳樹, 入澤 篤志, 菅野 敦, 五十嵐 良典, 北野 雅之, 兼田 裕司, 伊佐地 秀司, 武田 和憲, 竹山 宜典, 真弓 俊彦, 木原 康之, 桐山 勢生, 安田 一朗 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業難治性膵疾患に関する調査研究班	膵炎局所合併症(膵仮性嚢胞, 感染性被包化壊死等)に対する診断・治療コンセンサス	膵臓	29	777-818	2014
奥田 善大, 藤永 和寿, 種村 彰洋, 岸和田 昌史, 伊佐地 秀司	【膵炎大全～もう膵炎なんて怖くない～】膵炎の治療 膵炎に対する手術適応と手技	胆と膵	35	1085-1092	2014
柳元孝介, 西順一郎, 田中主美, 山元公恵, 丸山慎介, 石黒洋, 河野嘉文	嚢胞線維症の2幼児例	日本小児呼吸器学会雑誌	24	132-137	2014
Hiroshi Ishiguro	HCO ₃ ⁻ secretion by SLC26A3 and mucosal defence in the colon	Acta Physiol (Oxf)	211	17-19	2014
石黒洋, 山本明子, 中莖みゆき, 藤木理代, 近藤志保, 洪繁, 柳元孝介, 眞田幸弘, 成瀬達	膵炎大全～もう膵炎なんて怖くない～ 嚢胞性線維症に伴う膵障害	胆と膵	35	1235-1238	2014
成瀬達, 石黒洋, 村至上至孝, 遠藤彰, 東馬智子	嚢胞性線維症(CF)の早期診断・早期治療と患者の良好な予後を実現するために	小児科診療	77	S1-S11	2014
成瀬達, 山本明子, 石黒洋	膵炎大全～もう膵炎なんて怖くない～ 膵炎における膵内分泌機能検査	胆と膵	35	1063-1067	2014
成瀬達, 柴田時宗, 鈴木厚, 傍島裕司, 山本明子, 石黒洋	【新しい視点に立った膵内外分泌相関】膵の内外分泌相関 研究の源流から	胆と膵	35	311-316	2014

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年
成瀬達, 石黒洋	【慢性膵炎—新しい概念と診断・治療の展開】慢性膵炎の診断基準と診療ガイドライン	臨床消化器内科	29	529-538	2014
Aso A, Igarashi H, Matsui N, Ihara E, Takaoka T, Osoegawa T, Niina Y, Oono T, Akahoshi K, Nakamura K, Ito T, Takayanagi R.	Large area of walled-off pancreatic necrosis successfully treated by endoscopic necrosectomy using a grasping-type scissors forceps.	Dig Endosc.	26(3)	474-477	2014
Nakamura T, Ito T, Uchida M, Hijioka M, Igarashi H, Oono T, Kato M, Nakamura K, Suzuki K, Jensen RT, Takayanagi R.	PSCs and GLP-1R: occurrence in normal pancreas, acute/chronic pancreatitis and effect of their activation by a GLP-1R agonist.	Lab Invest. Lab Invest.	94(1)	63-78	2014
Uchida M, Ito T, Nakamura T, Hijioka M, Igarashi H, Oono T, Kato M, Nakamura K, Suzuki K, Takayanagi R, Jensen RT.	Pancreatic stellate cells and CX3CR1: occurrence in normal pancreas, acute and chronic pancreatitis and effect of their activation by a CX3CR1 agonist.	Pancreas.	43(5)	708-719	2014
Okazaki T, Kawa S, Kamisawa T, Ito T, Inui K, Irie H, Nishino T, Notohara K, Nishimori I, Tanaka S, Nishimura T, Suda K, Shiratori K, Tanaka M, Shimosegawa T, and Working members of Research Committee for Intractable Pancreatic Disease and Japan Pancreas Society	Amendment of the Japanese Consensus Guidelines for Autoimmune Pancreatitis, 2013. I. Concept and diagnosis of autoimmune pancreatitis.	J Gastroenterol.	49(4)	567-588	2014
Kawa S, Okazaki K, Kamisawa T, Kubo K, Ohara H, Hasebe O, Fujinaga Y, Irisawa A, Notohara K, Ito T, Inui K, Irie H, Nishino T, Nishimori I, Tanaka S, Nishiyama T, MD, Suda K, Shiratori K, Tanaka M, Shimosegawa T.	Amendment of Japanese Consensus Guidelines for Autoimmune Pancreatitis 2013 II. Extrapancreatic lesions, differential diagnosis.	J Gastroenterol.	49(5)	765-784	2014
Kamisawa T, Okazaki T, Kawa S, Shimosegawa T, Tanaka M, Nishimori I, Ito T, Tanaka S, and Working members of Research Committee for Intractable Pancreatic Disease and Japan Pancreas Society	Amendment of the Japanese Consensus Guidelines for Autoimmune Pancreatitis, 2013 III. Treatment and prognosis of autoimmune pancreatitis.	J Gastroenterol.	49(6)	961-970	2014
Niina Y, Ito T, Oono T, Nakamura T, Fujimori N, Igarashi H, Sakai Y, Takayanagi R.	A sustained prostacyclin analog, ONO-1301, attenuates pancreatic fibrosis in experimental chronic pancreatitis induced by dibutyltin dichloride in rats.	Pancreatology.	14(3)	201-210	2014

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年
Lee L, Ito T, Hijioka M, Igarashi H, Ueda K, Fujiyama T, Tachibana Y, Kawabe K, Jensen RT, Nakamura K, Kato M, Suzuki K, Takayanagi R	Current Management of Type 1 Autoimmune Pancreatitis : From the Viewpoint of Pancreatic Endocrine and Exocrine Function.	Autoimmune Dis Ther Approaches.	1(2)	105-113	2014
中村太一, 伊藤鉄英, 五十嵐久人, 脇岡真之, 李倫學, Jensen RT, 高柳涼一	膵疾患におけるインクレチン関連薬の意義と膵癌・膵炎リスクへの影響	胆と膵	35(4)	335-359	2014
伊藤鉄英, 脇岡真之, 李倫學, 立花雄一, 植田圭二郎, 藤山隆, 橋本理沙, 高松悠, 安永浩平, 五十嵐久人, 高柳涼一	早期慢性膵炎は慢性膵炎に進行するか	肝胆膵	69(6)	1131-1136	2014
伊藤鉄英	酒量の多い人はご用心 急性膵炎は命の危険も	Health&Life	10	18-19	2014
伊藤鉄英, 五十嵐久人, 新名雄介, 脇岡真之, 中村太一, 高柳涼一	特集4：早期慢性膵炎-新たらしい概念・治療の展開 早期慢性膵炎	臨床消化器内科	29(5)	539-544	2014
五十嵐久人, 脇岡真之, 伊藤鉄英	さまざまな病態における栄養のポイント 膵疾患の栄養管理	medicina	51(13)	2330-2333	2014
丹藤雄介, 遠藤龍人, 五十嵐久人, 長谷川範幸	座談会 栄養に関する新しい情報をどう臨床に活かすか	medicina	51(13)	2248-2255	2014
麻生暁, 中村和彦, 平橋美奈子, 小田義直, 伊藤鉄英	コラム(1)：異所性膵	胆と膵	35 (特大号)	993-995	2014
脇岡真之, 植田圭二郎, 藤山隆, 立花雄一, 李倫學, 五十嵐久人, 高柳涼一, 伊藤鉄英	膵炎に対する生活指導および栄養療法	胆と膵	35 (特大号)	1107-1111	2014
木原康之, 伊藤鉄英, 阪上順一	膵性糖尿病の病態と治療	胆と膵	35 (特大号)	1113-1117	2014
五十嵐久人, 脇岡真之, 李倫學, 立花雄一, 植田圭二郎, 藤山隆, 橋本理沙, 高松悠, 安永浩平, 伊藤鉄英	薬剤性膵炎	胆と膵	35 (特大号)	1143-1146	2014
藤森尚, 河邊顕, 五十嵐久人, 伊藤鉄英	ウイルス性急性膵炎	胆と膵	35 (特大号)	1165-1169	2014
李倫學, 脇岡真之, 五十嵐久人, 立花雄一, 植田圭二郎, 藤山隆, 橋本理沙, 高松悠, 安永浩平, 中村太一, 高柳涼一, 伊藤鉄英	虚血性膵炎	胆と膵	35 (特大号)	1181-1185	2014
藤山隆, 五十嵐久人, 伊藤鉄英, 高柳涼一	II 各論 膵疾患(膵炎, 膵がん, 自己免疫性膵炎)	糖尿病 コンサルテーションブック	糖尿病 医師・医療スタッフのプラクティス別冊	66-71	2014

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年
三木正美, 李倫學, 五十嵐久人, 新名雄介, 舩岡真之, 植田圭二郎, 藤山隆, 立花雄一, 山口裕也, 澄井俊彦, 高柳涼一, 伊藤鉄英	自己免疫性膵炎に合併する膵仮性嚢胞の形成機 序とステロイドの有用性について - 自験例12症例における検討 -	膵臓	29(4)	711-720	2014
乾和郎, 五十嵐良典, 入澤篤志, 大原弘隆, 田妻進, 廣岡芳樹, 藤田直孝, 宮川宏之, 佐田尚宏, 下瀬川徹, 田中雅夫, 白鳥敬子, 杉山政則	膵石症の内視鏡治療ガイドライン2014	膵臓	29	123-148	2014
下瀬川徹, 糸井隆夫, 佐田尚宏, 乾和郎, 白鳥敬子, 廣岡芳樹, 入澤篤志, 五十嵐良典, 北野雅之, 伊佐地秀司, 武田和憲, 竹山宜典, 真弓俊彦, 木原康之, 桐山勢生, 安田一朗	膵炎局所合併症(膵仮性嚢胞, 感染性被包化壊死 等)に対する診断・治療コンセンサス	膵臓	29	775-818	2014
山本智支, 乾和郎, 芳野純治, 三好広尚	内視鏡的膵石除去術	Gastroenterol Endosc	56	2416-2423	2014
乾和郎, 芳野純治, 三好広尚, 山本智支, 森智子, 黒川雄太, 細川千佳生, 大屋尊裕	特集 肝胆膵診療の New Horizon 保険収載さ れた膵石に対する ESWL 治療の適応と問題点.	肝胆膵	69	1137-1141	2014
Kawa S, <u>Okazaki K</u> , Notohara K, Watanabe M, Shimosegawa T	Autoimmune pancreatitis complicated with inflammatory bowel disease and comparative study of type 1 and type 2 autoimmune pancreatitis.	J Gastroenterol.	10.1007	s00535- 014-1012- 5	2014
Ikeura T, Miyoshi H, Uchida K, Fukui T, Shimata ni M, Fukui Y, Sumimoto K, Matsushita M, Takaoka M, <u>Okazaki K</u> .	Relationship between autoimmune pancreatitis and pancreatic cancer: A single-center experience.	Pancreatology	14(5)	373-379	2014
<u>Okazaki K</u> , Yanagawa M, Mitsuyama T, Uchida K.	Recent Advances in the Concept and Pathogenesis of IgG4-Related Disease in the Hepato-Bilio-Pancreatic System.	Gut Liver	8(5)	462-470	2014
<u>Okazaki K</u> , Uchida K, Koyabu M, Miyoshi H, Ikeura T, Takaoka M.	IgG4 cholangiopathy - current concept, diagnosis, and pathogenesis.	J Hepatol	61(3)	690-695	2014
Fukui Y, Uchida K, Sakaguchi Y, Fukui T, Nishio A, Shikata N, Sakaida N, Uemura Y, Satoi S, <u>Okazaki K</u> .	Possible involvement of Toll-like receptor 7 in the development of type 1 autoimmune pancreatitis.	J Gastroenterol	10.1007	s00535- 014-0977- 4	2014
Sumimoto K, Uchida K, Kusuda T, Mitsuyama T, Sakaguchi Y, Fukui T, Matsushita M, Takaoka M, Nishio A, <u>Okazaki K</u> .	The role of CD19+ CD24high CD38high and CD19+ CD24high CD27+ regulatory B cells in patients with type 1 autoimmune pancreatitis.	Pancreatology	14(3)	193-200	2014
<u>Okazaki K</u> , Uchida K, Sumimoto K, Mitsuyama T, Ikeura T, Takaoka M.	Autoimmune pancreatitis: pathogenesis, latest developments and clinical guidance.	Ther Adv Chronic Dis	5(3)	104-111	2014
<u>Kamisawa T</u> , Ohara H, Kim MH, Kanno A, <u>Okazaki K</u> , Fujita N.	Role of endoscopy in the diagnosis of autoimmune pancreatitis and immunoglobulin G4-related sclerosing cholangitis.	Dig Endosc	26(5)	627-635	2014

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年
片岡慶正, 下瀬川徹	慢性膵炎疼痛管理のための成分栄養療法	胆と膵	35(5)	473-479	2014
片岡慶正, 保田宏明, 十亀義生, 加藤隆介, 阪上順一	慢性膵炎の病態に応じた薬物療法と臨床的位置づけ	胆と膵	35: 臨時増刊特大号	1077-1084	2014
阪上順一, 片岡慶正, 保田宏明, 十亀義生, 加藤隆介, 土井俊文, 伊藤義人	血流から見た急性膵炎の初期病態: US による検討	膵臓	29(2)	171-177	2014
Keisho Kataoka, Junichi Sakagami, Morihisa Hirota, Atsushi Masamune, Tooru Shimosegawa	Effects of Oral Ingestion of the Elemental Diet in Patients With Painful Chronic Pancreatitis in the Real-Life Setting in Japan	Pancreas	43(3)	451-457	2014
片岡慶正, 横屋史彦, 永濱 忍, 下瀬川徹	疼痛を有する慢性膵炎に対する成分栄養剤(エレンタール R 配合内容剤)の臨床的有用性に関する研究—全国多施設調査症例における成因別解析	栄養—評価と治療	31(3)	67-74	2014
Kamisawa T, Zen Y, Pillai S, Stone JH	IgG4-related disease	Lancet	on-line first		2014
Iwasaki S, Kamisawa T, Koizumi S, Chiba K, Tabata T, Kuruma S, Kuwata G, Fujiwara T, Koizumi K, Arakawa T, Momma K, Hara S, Igarashi Y	Characteristic Findings of Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography in Autoimmune Pancreatitis	Gut Liver	9(1)	113-117	2015
Song TJ, Kim MH, Kim MJ, Moon SH, Han JM, Chari ST, Frulloni L, Kamisawa T, Kim MH, Lee JK, Lerch MM, Notohara K, Okazaki K, Ryu JK, Shimosegawa T.	Clinical validation of the international consensus diagnostic criteria and algorithms for autoimmune pancreatitis: combined IAP and KPBA meeting 2013 report.	Pancreatology	14(4)	233-237	2014
Chiba K, Kamisawa T, Kuruma S, Iwasaki S, Tabata T, Koizumi S, Endo Y, Kuwata G, Fujiwara T, Arakawa T, Koizumi K, Momma K	Major and minor duodenal papillae in autoimmune pancreatitis.	Pancreas	43(8)	1299-1302	2014
Kuruma S, Kamisawa T, Tabata T, Chiba K, Iwasaki S, Fujiwara T, Kuwata G, Egarashira H, Koizumi K, Koizumi S, Endo Y, Fujiwara J, Arakawa T, Momma K	Allergen-specific IgE antibody serologic assays in patients with autoimmune pancreatitis	Intern Med	53(6)	541-543	2014
Kamisawa T, Chari ST, Lerch MM, Kim MH, Gress TM, Shimosegawa T	Republished: recent advances in autoimmune pancreatitis: type 1 and type 2	Postgrad Med J	90 (1059)	18-25	2014
神澤輝実, 来間佐和子, 田畑拓久, 千葉和朗, 岩崎将, 小泉理美	自己免疫性膵炎の膵内外分泌相関 - 組織・機能から -	胆と膵	35(4)	361-364	2014
神澤輝実	膵臓が溶ける? 膵炎	NHK チョイス @ 病気になったとき	Vol 1	72	2014
神澤輝実, 来間佐和子, 田畑拓久, 千葉和朗, 岩崎将, 小泉理美	自己免疫性膵炎の概念	消化器内科	59(5)	451-455	2014

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年
袖澤輝実, 来間佐和子, 田畑拓久, 千葉和朗, 岩崎将, 小泉理美	膵の発生と形成異常 - 膵管癒合不全を中心に -	胆と膵	35臨時 増刊号	973-979	2014
窪田賢輔	自己免疫性膵胆道疾患における治療法別の長期予後	消化器内科	59	488-494	2014
Ishioka H	Early-Phase Thin-Slice CT in the Diagnosis of Small Insulinomas.	J Pancreas	16	597-599	2015
佐田尚宏	特集：急性膵炎の診断と治療：新しい動向。感染を合併した WON(Walled-off necrosis)の治療。外科的アプローチ。	膵臓	29	223-228	2014
佐田尚宏	特集：膵炎に対する低侵襲治療の進歩。急性膵炎の治療方針	胆と膵	35	399-404	2014
佐田尚宏	【膵炎大全～もう膵炎なんて怖くない～】膵炎各論 アルコール性膵炎	胆と膵	3	1125-1129	2014
佐田尚宏	【感染症診療 update】 (II 章) 主要な臓器感染症 腹腔内感染症重症急性膵炎(膵壊死部感染)。	日本医師会雑誌	143	S166-S168	2014
向井俊太郎	特集：急性膵炎の診断と治療：新しい動向。感染を合併した WON(Walled-off necrosis)の治療。内視鏡的アプローチ	膵臓	29	210-222	2014
武田和憲	急性膵炎における手術の役割と適応	胆と膵	35	421-428	2014
武田和憲	膵臓疾患	最新消化器看護	19	24-31	2014
竹山宜典	重症急性膵炎術後に必要な診療・治療	肝胆膵	69(1)	P7-11	2014
竹山宜典	基礎：重症膵炎と Bacterial translocation	G.I.Research	22(4)	P25(329) -29(333)	2014
竹山宜典	急性膵炎の重症化機序	胆と膵	35(10)	P1021- 1028	2014
竹山宜典	慢性膵炎に対する Frey 手術とその応用	消化器外科	38(1)	P1-13	2015
竹山宜典	膵悪性腫瘍に対する膵全摘術	消化器外科	38(1)	P37-42	2015
Sherman MH, Yu RT, Engle DD, Ding N, Atkins AR, Tiriack H, Collisson EA, Connor F, Van Dyke T, Kozlov S, Martin P, Tseng TW, Dawson DW, Donahue TR, Masamune A, Shimosegawa T, Apte MV, Wilson JS, Ng B, Lau SL, Gunton JE, Wahl GM, Hunter T, Drebin JA, O'Dwyer PJ, Liddle C, Tuveson DA, Downes M, Evans RM.	Vitamin D receptor-mediated stromal reprogramming suppresses pancreatitis and enhances pancreatic cancer therapy.	Cell	159	80-93	2014
Masamune A, Nakano E, Kume K, Takikawa T, Kakuta Y, Shimosegawa T.	PRSS1 c.623G>C (p.G208A) variant is associated with pancreatitis in Japan.	Gut	63	366	2014
Masamune A.	Recent advances in pancreatology.	Front Physiol	5	300	2014
Hirota M, Shimosegawa T, Masamune A, Kikuta K, Kume K, Hamada S, Kanno A, Kimura K, Tsuji I, Kuriyama S; Research Committee of Intractable Diseases.	The seventh nationwide epidemiological survey for chronic pancreatitis in Japan: Clinical significance of smoking habit in Japanese patients.	Pancreatology	14(6)	490-496	2014

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年
Kanno A, Masamune A, Shimosegawa T.	Endoscopic approaches for the diagnosis of autoimmune pancreatitis.	Dig Endosc	27(2)	250-8	2015
Kume K, Masamune A, Ariga H, Shimosegawa T.	Alcohol Consumption and the Risk for Developing Pancreatitis: A Case-Control Study in Japan.	Pancreas	44(1)	53-58	2014
Hamada S, Masamune A, Kikuta K, Hirota M, Tsuji I, Shimosegawa T; Research Committee of Intractable Diseases of the Pancreas.	Nationwide epidemiological survey of acute pancreatitis in Japan.	Pancreas	43(8)	1244-8	2014
Nakano E, Masamune A, Niihori T, Kume K, Hamada S, Aoki Y, Matsubara Y, Shimosegawa T.	Targeted Next-Generation Sequencing Effectively Analyzed the Cystic Fibrosis Transmembrane Conductance Regulator Gene in Pancreatitis.	Dig Dis Sci	Epub ahead of print		2014
Nakano E, Masamune A, Kume K, Kakuta Y, Shimosegawa T.	Variants in the interferon regulatory factor-2 gene are not associated with pancreatitis in Japan.	Pancreas	43(7)	1125-6	2014
正宗 淳, 中野絵里子, 糸 潔, 新堀哲也, 青木洋子, 下瀬川徹.	膵炎の原因遺伝子化探索	膵臓	29	51-58	2014
正宗 淳, 中野絵里子, 糸 潔, 新堀哲也, 青木洋子, 下瀬川徹.	膵炎の原因遺伝子はどこまで解ったか	肝胆膵	69	1115-21	2014
正宗 淳, 濱田 晋, 菊田和宏, 廣田衛久, 下瀬川徹.	膵炎の疫学 - 全国調査より -	胆と膵	35	1011-4	2014
正宗 淳, 下瀬川徹.	遺伝性膵炎・家族性膵炎	胆と膵	35	1137-41	2014
三浦 晋, 正宗 淳, 下瀬川徹.	慢性石灰化膵炎の ESWL	胆と膵	35	447-53	2014
菅野 敦, 正宗 淳, 下瀬川徹.	自己免疫性膵炎の疫学調査	消化器内科	59	456-461	2014
菊田和宏, 正宗淳, 下瀬川徹.	全国調査からみた急性膵炎における耐糖能障害	消化と吸収	36	253-256	2014
菊田和宏, 正宗淳, 下瀬川徹.	慢性膵炎の膵内外分泌機能と臨床像 - 全国調査から	胆と膵	35	343-347	2014
菊田和宏, 正宗淳, 濱田晋, 下瀬川徹.	我が国の急性膵炎の予後	膵臓	29	151-156	2014
糸 潔, 正宗 淳, 下瀬川 徹.	次世代シーケンサーによる膵炎関連遺伝子の網羅的解析	Annual Review 消化器		222-226	2014
糸 潔, 正宗 淳, 下瀬川 徹.	小児の胆膵疾患 若年性膵炎と遺伝性膵炎	肝胆膵	69(4)	541-546	2014
真弓俊彦, 遠藤 武尊, 山田 晋司, 染谷一貴, 大坪広樹, 高間辰雄, 城戸貴志, 亀崎文彦, 吉田雅博, 高田忠敬	肝・胆道感染症ガイドライン	感染症道場	3(1)	34-39	2014
真弓 俊彦	急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン2013	診療ガイドライン Manual on Research Evidence & Clinical Experience UP-TO-DATE		52-56	2014
真弓 俊彦	急性胆管炎, 胆嚢炎の診療指針	救急・集中治療最新ガイドライン2014-15		316-320	2014

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年
桐山勢生, 高田忠敏, 吉田雅博, 真弓俊彦	TG13: 多施設共同研究からの新診断基準(何が 旧来の診断基準をかえさせたのか?)	日本腹部救急医学会雑 誌	34(3)	621-625	2014
横江正道, 桐山勢生, 真弓俊彦, 吉田雅博, 高田忠敏	TG13: 重症度判定基準のポイント(臨床現場と の乖離をいかに埋めるか?)	日本腹部救急医学会雑 誌	34(3)	627-632	2014
岡本好司, 高田忠敏, 吉田雅博, 真弓俊彦, 三浦文彦	TG13: Management Bundle と今後のガイドラ イン評価計画	日本腹部救急医学会雑 誌	34(3)	671-676	2014
Fujishima S, Gando S, Saitoh D, <u>Mayumi T</u> , Kushimoto S, Shiraishi S, Ogura H, Takuma K, Kotani J, Ikeda H, Yamashita N, Suzuki K, Tsuruta R, Takeyama N, Araki T, Suzuki Y, Miki Y, Yamaguchi Y, Aikawa N; Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry (JAAM SR) Study Group.	A multicenter, prospective evaluation of quality of care and mortality in Japan based on the Surviving Sepsis Campaign guidelines.	J Infect Chemother.	20(2)	115-120	2014
Ogura H, Gando S, Saitoh D, Takeyama N, Kushimoto S, Fujishima S, <u>Mayumi T</u> , Araki T, Ikeda H, Kotani J, Miki Y, Shiraishi S, Suzuki K, Suzuki Y, Takuma K, Tsuruta R, Yamaguchi Y, Yamashita N, Aikawa N; Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry (JAAMSR) Study Group.	Epidemiology of severe sepsis in Japanese intensive care units: A prospective multicenter study.	J Infect Chemother.	20(3)	157-162	2014
Murata A, Okamoto K, <u>Mayumi T</u> , Maramatsu K, Matsuda S.	Age-related differences in outcomes and etiologies of acute abdominal pain based on a national administrative database.	Tohoku J Exp Med.	233(1)	9-15	2014
真弓俊彦, 遠藤武尊, 染谷一貴, 神谷行宣, 中野和歌子, 大坪広樹, 高間辰雄, 城戸貴志, 亀崎文彦	急性膵炎の診断と重症度判定	膵臓	29(2)	157-162	2014
真弓俊彦(産業医科大学 医学部救急医学講座), 染谷一貴, 大坪広樹, 高間辰雄, 城戸貴志, 亀崎文彦, 吉田雅博, 高田忠敏	腹部急性胆管炎・胆嚢炎診療 ガイドライン 2013	EMERGENCY CARE (1349-6557)	2014新 春増刊	77-81	2014
横江正道, 真弓俊彦, 竹山宜典	急性膵炎における経腸栄養の重要性 - 全国ア ンケート調査の結果から -	膵臓	29(2)	196-201	2014
Kamezaki F, Tsutsui M, Takahashi M, Sonoda S, Kubo T, Fujino Y, Adachi T, Abe H, Takeuchi M, <u>Mayumi T</u> , Otsuji Y	Plasma Levels of Nitric Oxide Metabolites are Markedly Reduced in Normotensive Males with Electrocardiographically Determined Left Ventricular Hypertrophy	Hypertension	64(3)	516-522	2014